



■たかのす米代川花火大会

秋田県内のトップをきって開催される花火大会。絵柄を浮かび上がらせる割物花火や、華やかなスターメイン、ナイアガラなど、約5千発の花火が米代川の水面を彩ります。今年大会は7月9日（土）開催。たいへん込み合いますので、近隣の方は、徒歩でのご来場をお願いいたします。



■あきた北空港（大館能代空港）

平成10年7月10日に開港以来、今年で満7年目を向かえます。当初、東京便、大阪便、札幌便が1便ずつ就航していたが、現在は、東京便が2便、4月からは大阪便が通年運行となりました。

最近では空港を利用し、十和田・八幡平、白神山地はもちろん、奥森吉など市内の観光地を訪れる観光客も増えています。

空港の利便性を高めるために、あきた北空港南北線の整備（中岱橋の建設）、そばを通る予定の日本海沿岸東北自動車道の早期建設などが課題となっています。



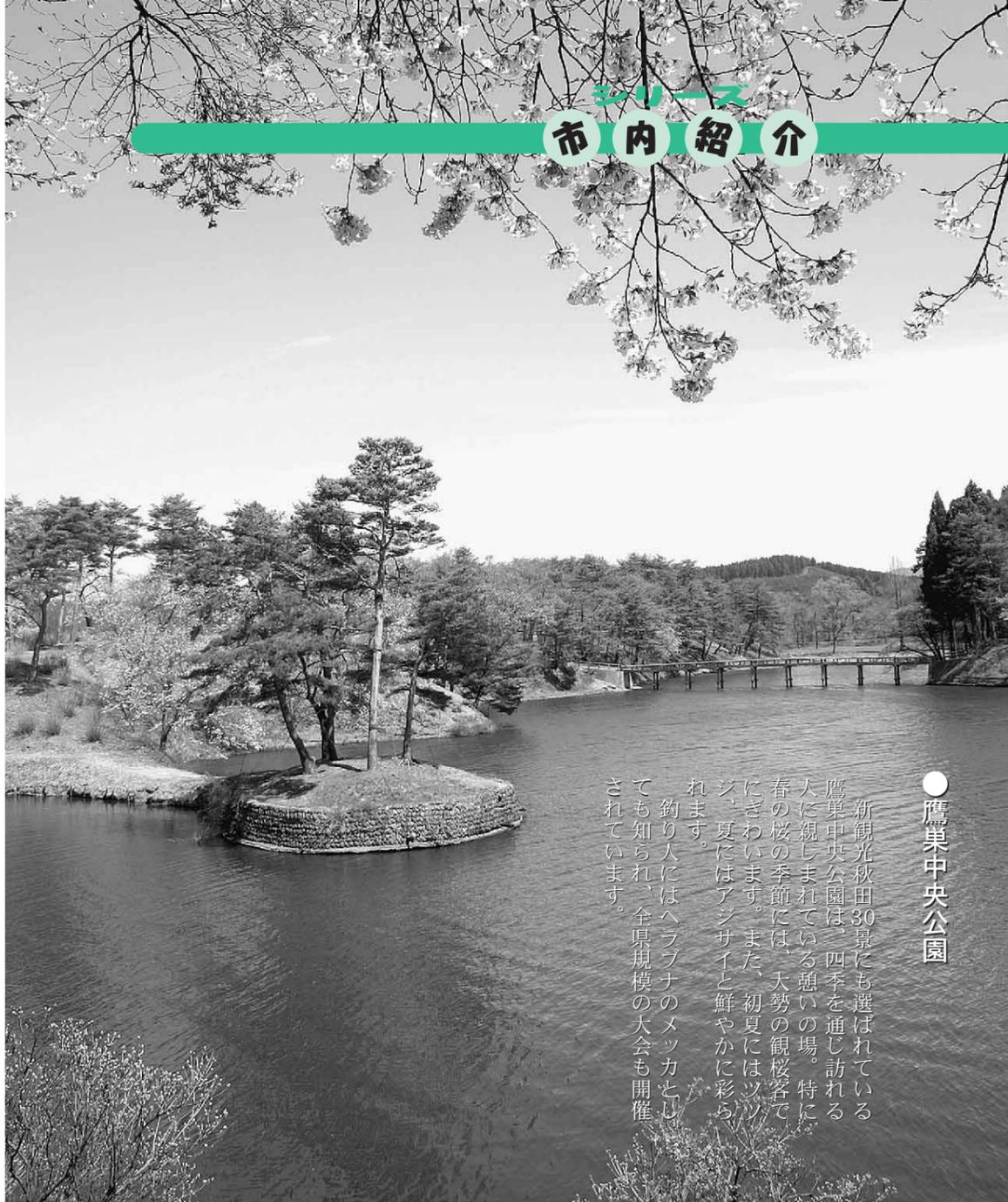
■鷹巣町民盆踊り大会

もとは、慶応年間（1865～）のころ、鷹巣村の商人らが豊作と商売繁盛を祈願して始まった「鷹巣盆踊り」が起源。仮装を凝らして踊ったといわれ、今でもその名残が残っています。

一時途絶えたものの、昭和40年ころから町民盆踊り大会として復活、帰省客なども参加し、鷹ノ巣駅前前の繁華街を会場に盛大に行われています。

■ふるさと踊りと餅っこ祭り

毎年6月第1日曜日に開催されている初夏の恒例イベント。昭和60年、新たなふるさと文化を創ろうと始まったもので、既に伝統行事になりつつあります。女性数千人による華やかな踊りの行進は必見です。



シリーズ 市内紹介

旧鷹巣町編

特集

北秋田市・市内紹介

■鷹巣地区（旧鷹巣町）編

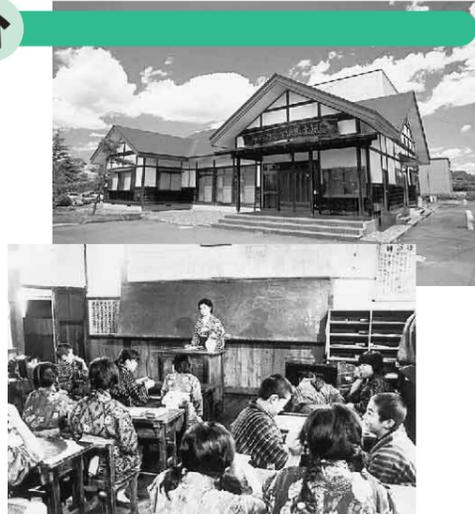
●鷹巣中央公園

新観光秋田30景にも選ばれている鷹巣中央公園は、四季を通して訪れる人に親しまれている憩いの場。特に春の桜の季節には、大勢の観桜客でにぎわいます。また、初夏にはツツジ、夏にはアジサイと鮮やかに彩られます。釣り人にはヘラブナのメッカとしても知られ、全県規模の大会も開催されています。

シリーズで掲載している市内の各地区紹介。今回は、鷹巣地区（旧鷹巣町）についてご紹介いたします。「鷹巣」の地名は、かつての鷹巣村が開村した当時の「白鷹」伝説に由来します。中世以前の歴史は明確ではありませんが、「綴子」の元となった地名が日本書紀に記され、また、平安時代の役所跡と推測される遺跡なども発見されています。また、あきた北空港のそばでは、国指定史跡となった「伊勢堂伝遺跡」が縄文の□マンを物語っています。

■鷹巣地区の沿革

旧鷹巣町は、50年前の昭和30年4月1日、当時の鷹巣町、栄村、坊沢村、七座村、沢口村の5カ町村が合併、さらに翌31年9月30日に、綴子村、七日市村の計2カ町村が合併して誕生しました。地区の中央部には、米代川が東西を流れる鷹巣盆地が沃野を形成し、また、南部には、かつて天然秋田杉の宝庫だった広大な国有林が広がっています。藩政期、米代川沿いには羽州街道が通り、綴子地区は宿場町として栄えました。明治に入り、郡役所（現在の地域振興局）が設置され、また奥羽本線が開通すると、当時の鷹巣町が栄えるようになりました。戦後の昭和25年には大火を経験しながらも復興、2次にわたる都市計画を実施して現在の中心市街地ができあがりました。



■北秋田市文化会館（旧たかのす風土館）

615席の客席を備えた文化ホールと、図書館、資料展示室等の機能を備えた複合施設。建設当時、町名の「鷹」にちなんで、「ファルコン」と愛称が付けられました。

ホールは、各種コンサートや演劇公演、映画上映会、サークルや芸文団体の発表会など、文化の拠点として活発に利用されています。

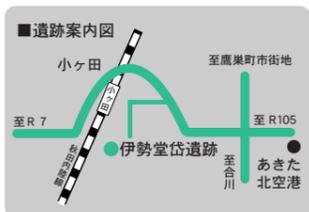
■みちのく子ども風土記館

鷹巣町出身の直木賞作家・渡辺喜恵子氏（1914-1997）の作品「みちのく子ども風土記」ゆかりの建物。作品は、大正末期の鷹巣町を舞台にしたもので、昭和59年、桜田淳子主演で映画化が企画され、鷹巣や合川地内で多数の町民エキストラが参加して撮影が行われましたが、未完に終わりました。

■国指定史跡「伊勢堂岱遺跡」

あきた北空港アクセス道路建設中に発見された縄文時代後期（約4,000年前）の遺跡。

複数の環状列石（ストーンサークル）や、多くの土壙（墓）、建物跡などが発掘され、当時の大規模な葬礼の場ではないかと考えられています。



■市指定文化財「長岐邸」

長岐家は、七日市の宗家。桃山時代にはすでにこの地で村づくりをし、佐竹氏が入国してからは代々肝煎にあげられ、村人の生活向上に努めてきた家柄。

長岐邸は文政13年（西暦1830年）頃の建築と推測され、江戸の面影を残す建築様式や意匠はたいへん貴重なものとされています。昨年、所有者から寄付を受け、現在市が管理しています。



綴子上町が当番町だった昨年のお祭りの様子。神社境内での獅子踊り(上)と大名行列(下)

■八幡宮綴子神社例大祭

綴子地区に伝わる伝統行事、通称「綴子大太鼓祭り」は、雨乞いや五穀豊饒を祈願するため、今から700年以上前の弘長2年（西暦1262年）頃から始まったと伝えられています。

太鼓は、上町、下町両集落が大きさを競い合い、どちらも直径が4メートル近い、巨大なものになりました。お祭りは毎年7月14日（宵宮）と15日に行われ、今年下町が綴子神社への太鼓奉納の当番を務めます。

奉納行事は、大名行列の形をとって集落内を行進、綴子神社では、獅子踊りほかの伝統芸能も披露されます。お問い合わせは下記まで。

●(問) 北秋田市役所商工観光課 ☎0186-62-6639



■大太鼓の館（道の駅たかのす）

綴子大太鼓をはじめ、世界各国の太鼓を展示している「太鼓の博物館」。

「世界の太鼓ミュージアム」には、40カ国以上の太鼓が展示され、世界の国々の伝統や文化を伝えます。

映像ホール「体感ゾーン」では、「綴子神社祭典」での大太鼓奉納の様子が150インチ大型スクリーンに映し出され、実際の大太鼓の演奏の迫力を体感することができます。

また、隣接の「ぶっさん館」では地域の特産品を販売しています。

●(問) 大太鼓の館 ☎0186-63-0111

